

## 石川県の海岸保安林におけるオオタカの繁殖例

石塚 徹<sup>1</sup>・池田善英<sup>2</sup>

1. 星野リゾ - トpicchio (星野ワイルドライフリサ - チセンタ - ). 〒389-01 長野県軽井沢町星野

2. 希少猛禽類研究センタ - . 〒921 石川県金沢市八日市3-210

### はじめに

「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種に指定されているオオタカ*Accipiter gentilis*は、石川県内での生息確認は以前からあったものの、最近まで繁殖は確認されていなかった(日本野鳥の会石川支部 1990)。ゴルフ場が多く建設されるようになった1990年以降は、これらの開発にともなう環境アセスメント調査によって、開発計画地や隣接地域の丘陵帯のアカマツ林などで、オオタカの繁殖が次々と確認された(池田ほか 1992, 池田善英 未発表)。

今回、金沢近郊の海岸林でのオオタカの繁殖を2年連続で確認したが、同時に人間の干渉による繁殖活動への影響も示唆された。海岸林での繁殖は、国内でも珍しいと考えられるが、石川県内では初めての記録である。本報では、今回の観察概要を報告するとともに、今後の問題点を報告する。

本文に先立ち、営巣地特定や営巣状況の観察に協力していただいた日本野鳥の会石川支部の平田豊治、手井修三、深田和人の各氏、希少猛禽類研究センタ - の柴野哲也、中村真一郎、池田真弓の各氏、ならびに日本動物植物専門学院金沢校の学生諸氏に感謝申し上げます。

### 1994年の繁殖

オオタカの巣が発見されたのは、石川県加賀地方の海拔約7mの海岸保安林である。樹高7~15mのクロマツ *Pinus thunbergii* とハリエンジュ *Robinia pseudoacacia* からなる防砂林で、低木層にはマユミ *Euonymus sieboldianus*、シロダモ *Neolitsea sericea*、ノイバラ *Rosa multiflora* などがわずかにみられる。こうした林は海岸線にそって数kmにわたって続いているが、林の幅は100~150mと狭い。保安林の内陸側には農耕地、工場、住宅地などが広がっている。

1994年6月18日に発見された巣はクロマツにかけられていた。約22年生と推定される営巣木は樹高16m、胸高直径は23cmであった。巣は地上7.6mの分枝部にかけられていた(図1の右端)。近くで建設中の道路からの最短距離は40mであった。工事用車輛がこの道路を通行しても親鳥は反応を示さなかったが、観察者などの人間が通行した場合には親鳥の



図 1 . 1994年のオオタカの営巣木と1994年秋から1995年春までのあいだに整備された公園遊歩道  
 Fig. 1. Goshawk nesting tree in 1994 and promenade constructed during autumn 1994 to spring 1995.

激しい警戒や威嚇行動がみられた。6月29日以降7月4日までのあいだに3羽のヒナが巣立った。7月31日にも付近で幼鳥の声が聞かれた。巣の測定は8月19日に行なったが、巣の下にはドバト *Columba livia* var. *domestica* のものと思われる羽毛や骨などが散在していた。

1994年の冬から1995年の春にかけて、この林の一部は下草や低木が刈りはらわれて公園化された。オオタカの巣は遊歩道に取り囲まれる形になり、遊歩道と巣の最短距離は5.8 mであった(図1)。

#### 1995年の繁殖

1995年の繁殖にもちいた巣は、前年の巣から140 m離れた同保安林内の、17年生と推定される若いクロマツにかけられていた。オオタカでは同一の巣を数年間にわたり連続使用することが一般的であることから(清棲 1978, 東京電力・東電設計 1993, 森岡ほか 1995), オオタカが営巣木を変えた原因は公園整備である可能性が高い。

1995年の営巣木は樹高9.8 m, 胸高直径19 cmで、巣は地上6.4 mの分枝部にかけていた。この測定値は、国内でこれまでに知られている同種の営巣木としてはもっとも小さな部類であった(森岡ほか 1995)。先の建設中の道路からの最短距離は46 mであった。巣の場所は移動したが、観察された親鳥の行動範囲や警戒行動の位置は前年とあまり変わらなかった。6月には、前年の古巣の下で、ササゴイ *Butorides striatus* 幼鳥の羽毛をむしっているのも観察された。6月29日にヒナ2羽のうち1羽が巣立ったが、7月10日には巣内に再び2羽のヒナが確認された。その後、同14日には巣内にも周辺にもまったく観察されなかったが、7月22~23日には再び巣の近くで幼鳥が観察された。

## 考 察

国内でこれまでに報告されているオオタカの営巣地は、高木層と低木層との間に一定の空間の開いた、樹齢40年以上のアカマツ林であった（遠藤ほか 1987, 東京電力・東電設計 1993）。今回の繁殖地の特徴は、市街地と海岸線とはさまれた狭い帯状の林であり、クロマツとハリエンジュを主とした樹齢20年前後の若い林であったことである。しかも、低木層は少ないが、林全体の高さが低いため、その内部は密集した状態である。しかし、そのことがむしろ道路から比較的近い地点での営巣を可能にしたと考えられる。また、工場や住宅地の周辺に多いドバトが、繁殖のための十分な食物資源となっていたものと考えられた。

この営巣地域では、繁殖確認前の1992年にはオオタカの生息は確認されていなかったことから、近年繁殖するようになった場所と考えられる。しかし、2年連続で繁殖が成功したことから、今後も継続して繁殖する可能性がある。ただし、人工林であるとはいえ、十分な調査もなされずに公園がつけられ、建設中の道路が完成して交通量が増えると、営巣地が放棄されることも懸念される。

今回のような若齢の林や低地の小規模な林でもオオタカが繁殖できるとすれば、市街地でスズメなどを食物として繁殖している近縁種のツミ *A. gularis*（遠藤・平野 1990）と同じように、ドバトが多いなど比較的食物条件がよいと考えられる都市近郊で広範囲に繁殖するようになる可能性がある。しかし、オオタカが都市近郊に分布を広げてきても、十分な環境アセスメント調査がなされずにこのような繁殖地が開発されれば、また知らず知らずのうちに再び分布を縮小することも予想される。

国の各省庁や地方自治体が定めている環境アセスメント条例や要綱では、適用される開発の規模が数十から数百 ha 以上の場合が多い。しかし、今回の事例のようにこれらの基準に満たない林地でも「国内希少野生動植物種」であるオオタカが繁殖する可能性がある以上、開発計画地の面積にかかわらず、地元研究者などから聞き取り調査などを行ない、可能性が高い場合には一定規模の調査を行なうことが望まれる。

## 引用文献

- 遠藤孝一・中山岳彦・飯沼覚寿・ト・マス・ミラ . . 1987. 那須野ヶ原におけるオオタカの繁殖期の生息状況と営巣環境（講演要旨）. 日鳥学誌 36: 111.
- 遠藤孝一・平野敏明. 1990. 市街地周辺におけるツミの繁殖記録と営巣環境. 日鳥学誌 39: 35-39.
- 池田善英・須藤一成・真崎健. 1992. 石川県加賀地方におけるハチクマとオオタカの繁殖初記録. Strix 11: 353-355.
- 清棲幸保. 1978. 増補改訂版日本鳥類大図鑑. 講談社, 東京.
- 森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則夫. 1995. 図鑑 日本のワシタカ類. 文一総合出版, 東京.
- 日本野鳥の会石川支部（編）. 1990. 石川の自然, 野鳥. 橋本確文堂企画出版, 金沢.
- 東京電力・東電設計. 1993. イヌワシ・クマタカ・オオタカ事典. 東京電力・東電設計, 東京.

## Goshawk breeding in coastal windbreak forest in Ishikawa

Toru Ishizuka<sup>1</sup> & Yoshihide Ikeda<sup>2</sup>

1. Hoshino Resort picchio (Hoshino Wildlife Research Center), Hoshino, Karuizawa 389-01.

2. Rare Raptor Research Center, Yokaichi 3-210, Kanazawa 921.

Goshawks *Accipiter gentilis* were found breeding in the coastal region (7 m a.s.l.) of Ishikawa Prefecture in 1994 and 1995. The nests were built in Japanese Black Pines *Pinus thunbergii*, which were younger than the average nest trees in Japan. The nest tree used in 1995 was 140 m from that used in 1994. The possible reason that the hawk pair changed the nest tree was because a promenade was constructed 5.8 m from the old nest tree after the 1994 breeding season.

*Key words: Accipiter gentilis, breeding record, Ishikawa prefecture*